地域おこし協力隊新聞

第四号

こんにちは。赤井川村地域おこし協力隊・戸田です！先月末のことになりますが、2日間にわたり徳島県の上勝町（かみかつちょう）というところで開催された視察ツアーへ行かせていただきました。せっかくなので今回はその様子についてお伝えしたいと思います！

●徳島県上勝町ってどんなところ？

・徳島県のほぼ中央に位置し、四国で最も人口が少ない町

・人口約1800人、高齢化率は約51・6％（平成27年4月現在）

※ちなみに赤井川村の高齢化率は約31・6％（平成28年2月現在）

・赤井川村と同様「日本で最も美しい村」連合に加盟している

●どうして上勝町の視察ツアーへ行ったの？

上勝町は町おこしが成功したことで有名です。その成功したといわれるユニークな事業が「葉っぱビジネス」。地域おこし協力隊として今後の活動のヒントになるようなものを見つけ出すことが、今回の視察の目的でした。

●葉っぱビジネスって何？ 詳しくは「人生・いろどり」という映画をご覧ください★

葉っぱビジネスの誕生は今から約三十年以上前、異常寒波により町中のみかんの木が全滅したことがきっかけでした。みかんづくりが主要産業だった上勝町には、みかんに代わる産業が必要でした。当時農協の若手職員だった横石氏（現・株式会社いろどり代表取締役）が提案した「葉っぱを町の産業に」というアイデアは、当然のごとく却下されたそうです。具体的には、販売用にきちんと栽培した葉っぱを日本料理の季節感を演出するための「つまもの」として生産しようというアイデアでした。「そんなもの成功するわけない」「自分たちをバカにしているのか」と大反対されながらも、昭和61年たった4戸の生産者とともに葉っぱビジネスはスタートしました。それが今や約200戸の生産者、年間販売額約2億6千万円もの大事業です。横石氏は「今の子だったら、村から出てけ！って怒鳴られたら出てっちゃうでしょ？でも僕は絶対上勝町を変えるって思ったから出て行かなかった」とおっしゃっていました。

●成功した町のエライひと

上勝町の花本町長や横石氏のお話を聞いていると、町民のことを非常によく理解しているんだなーと感じました。意外にも顔を合わすことはあまりないそうですが、SNSを通じて繋がっている部分が大きいようです。上勝町では90歳のおばあちゃんでもタブレット（画面をタッチして操作するコンピュータ）を使いこなします。

●考え方の違い

傾向として、高齢者は働いて稼ぐことを生きがいとしますが若者は稼ぐことよりも人の役に立つことにやりがいを感じます。地元の人は先代が築き上げたものを守ろうとし移住者は新しいことをはじめます。上勝町でもそれぞれの世代、背景などの違いからぶつかり合うことがありました。そこでまずは休日を利用し、町役場の職員を対象に自主参加という形で「楽しいまちづくり」研修を行うなどをして「自分たちの手で自分たちの地域を作っていく」という意識作りからはじめたそうです。その後は町民にも研修に参加してもらい、皆が「町をよくする」という共通の認識を持ったことで、それぞれの考え方がうまく生かされるようになりました。

●それでも止まらない人口減少

上勝町はこんなにもメディアに取りあげられ、若者の移住も増えているのに今でも人口減少が止まりません。現在も町づくりに一生懸命取り組んでいます。

●美しさは人の手でつくるもの

何年も続けて上勝町を訪問している人は「上勝町は来るたびに進化してる。本当にすごい」と驚いていました。「日本で最も美しい村」登録条件のひとつでもある「樫原の棚田」は自然にあるものではなく、毎年人の手で整えられています。おばあちゃんが草刈り機を肩に担ぎ歩いていく姿は勇ましく、町の美しさを守っていると感じました。

●感想

上勝町の取組みの中で特に素晴らしいと思ったのは、葉っぱの概念を変えたこと、異常寒波によるピンチをうまくチャンスに変えたこと、本文には触れていませんが、お年寄りのことを本当に考慮した流通システムを、何度も失敗を重ねながら考え出したことです。上勝町にはその地に合う町おこしがあったように、赤井川村でしかできない地域おこしを模索しつつ挑戦していきたいです！ 二〇一六年二月一五日